

# 風力発電でいわきの山はどうなる？

阿武隈風力発電環境影響方法書説明会が1月29日（水）14:00～15:00の予定でいわき市福祉センターで開催されました。事業者と環境影響調査を委託された気象協会の担当者が説明をしました。

石城山岳会からは秋葉、下山田、志賀、佐藤勤、狩野、伊藤、渋谷の7名が参加し、総参加者は12名でした。

約30分間事業者からの説明を受けた後、質問に入りました。



## 発電所の概要

事業者 エコ・パワー（株）

事業区域 屹兎屋山とその南側支稜及び西側支稜

最大175,000kW（定格出力2,000～3,500kWを最大50基設置）

固定価格買取制度により発電した全量を東北電力に売電

20年間 ローター約86～137m、ハブ高さ65～110m、最大高さ108～178.5m

## 「検討する… …」 不安が増大（質問及び返答から）

### 1 縦覧、説明会について

環境影響評価方法書の閲覧がされました。しかし、私たちのような一般人が、この膨大な資料を私たちが読み解くことは困難です。このようにスライドを使って説明されると理解することができます。しかし、この説明会が周知がされていない。

1時間に制限しないで、質問に答える時間を保証すること。

返答 ⇒ 小川地区には広報で周知した。今後は自治体と相談し検討する。時間は30分程度延長可能。

### 2 地域の活性化への貢献とは具体的に何か

地元自治体の税収増加（操業期間に亘る固定資産税）と地方交付税が減額について、地元雇用について、観光客の影響について

⇒ 固定資産税はプラスになるが地方交付税はその内75%が減額になる。

地元雇用はメンテナンス等外注を含め10名以上？

観光客の影響は自然を求める人にはマイナス、地元自治体と協議し準備書に記載する。

### 3 工事について

高さ108～178.5mの風力発電が50基（マリンタワー60m、ビッグアイ135m）。基礎工事は地中どのくらい掘り下げ、1基当たりのセメントは生コン車に換算して何台くらいか、工事用の道路幅は？ 大規模な自然破壊を伴う、水源保護、異常気象大雨が心配である。

⇒ 基礎工事は採用の発電機によって違うが、2000kwの場合16m四方、深さ3～5m、約450リュウベ。残土は切る量と盛る量の関係があるので、準備書に記載する。

道路幅は4～6m。

### 4 有効な発電はできるのか

自然エネルギー普及、そのためにこの地区に風力発電をお願いするのが趣旨。発電実績を公表していないのはなぜか？ 発電状況は公表しないということであれば、自然工

エネルギーとしての風力発電がどの位役立つのか、役立たないのか判断のしようがない。年平均でなく、春夏秋冬と8月の13~16時の風況を明らかにして下さい。  
 ⇒ 他企業の参入状況をつくってしまうので、発電実績、風況、決算状況は公表していない。8月の13~16時の風況は7m位と思う。



- 5 超低周波・騒音・風車の影による被害対応について  
 超低周波・騒音等の参考値は安全値ではない。3 kmより遠くの住民にも被害をもたらしている。3 km以内には建設すべきでない。被害が発生した場合の対応をどうするのか。  
 ⇒ 事前に測定、予測できる。発生した場合は現場で実測し対応する。
- 7 メーカーは決定しているか、事故例は？ 輸入の場合のメンテナンスは？  
 ⇒ 検討中。
- 8 管理会社がどうなるのか、維持管理の職員は、倒産もあり得るリスク対応は？  
 ⇒ 基本的には自社だが、修繕は協力地元の会社へ発注 10 名程度になるだろう。
- 9 故障、事故等で使用できない場合、耐用年数は 20 年を過ぎた場合、営業終了後施設はどうするのか、撤去現状復帰するのか  
 ⇒ 20 年は目途であり、それ以上使える場合もあるのでその時点で検討。撤去できる場所に建設する。
- 10 県内外から登山者が来ているかニッ箭山からの景観は、ニッ箭山から屹兎屋山は人気の縦走コース登山道はどうするのか  
 ⇒ 検討していく。
- 11 低周波の基準値は、調査するだけなのか、電波が入りにくくなったら？  
 ⇒ 検討する。共同アンテナ等の方法もある。
- 12 気象協会はどういう立場か  
 ⇒ 事業者の業務を委託している。
- 13 低周波の測定法、「ブーン音」の対策は  
 ⇒ 調査して対応する。

#### 14 道路の維持管理は

⇒ 借地は事業者、公道はそれぞれの管理者。

#### 15 水道水等への不慮の事故による対応は

⇒ 土砂が中心なると思うが、検討する。

#### 16 風力発電と共生できる尺度を、風車の下を歩くことは可能か。

⇒ どういう方向が良いのか検討する。

#### 17 建設に補助金はあるのか

⇒ 以前はあったが、現在はFIT（固定価格買い取り制度）で担保される。未定だが送電線会社に補助、地元貢献への補助はあり得る。

#### 18 土地所有の内訳は

⇒ ほとんどが国有林。

#### 19 保安林、水源涵養林は含まれているか

⇒ 解除手続きをし、準備書に記載する。

#### 20 借地料は

⇒ 現段階では分からない。

#### 21 配慮書では土壤汚染の評価があり、放射線量の高い所があったが方法書ではなくなっている。もっと原発に近いところの建設

⇒ 検討し準備書に記載する。

#### 22 発電した電力の接続方法は？ 埋設ケーブルなるともっと大規模な開発になる

⇒ 東北電力管内の電力系統、いわき開閉所（東京電力）へ接続する？ 検討する。

#### 23 50基という大規模な開発になる。立ち入り制限になるのか

⇒ 検討する。

#### 24 説明の中で地元雇用と8月の13～16時の風況についてあいまいな返答で理解できない。準備書に記載すること。



### 地元にもメリットは無く 負担のみ

風力発電建設は環境影響評価手続で、1 配慮書の手続、2 方法書の手続、3 準備書の手続、4 評価書の手続、を経て許認可となります。

現在は2の段階です。事業者の説明は都合の良いことばかりで、全く問題ないように聞こえます。しかし、真実は明らかにされず、有効な発電・売電ができるのか？ 温室ガス削減になるのか？ 地元にもメリットがあるのか？ 全く不明です。

地元へのメリットは全くなく、事業終了の20年後、我慢と犠牲が強いられ、残るのは廃物となった施設と自然破壊のみとなるのが危惧されます。今回の説明会の質問でそのような問題点がある程度明らかにすることができました。

当会としては「登山道破壊」「景観破壊、自然破壊」が一番懸念される点です。事業者は「検討する」と言っていますが、無配慮で強行されてしまうことのないようウォッチ&発言していきたいと思えます。

今後、石城山岳会としての意見書、あるいは個人としての意見書を提出し、それらが次の段階の、「3準備書」に反映されるかどうか注視するとともに、風力発電の不都合な真実を明らかにしていきます。

（秋葉）